

四つの落語会をめぐる福岡の旅

平成 27 年 12 月 11 日（金）千葉＝雨 福岡＝小雨のち曇

雨がやや激し目に降る中、6 時 06 分の一番バスに乗って勝田台へ。何と久しぶりに乗った一番バスは予想以上に混んでいて、座席にありついたのは自分が最後だった。勝田台から乗った羽田空港行も満員で、押上でようやく座ることができた。昔はこんな電車で都心まで通ったのだとあらためて驚き。

8 時前に羽田空港駅に到着し、搭乗手続きを済ませてから朝食。弁当屋のショーケースを見ていたらカツサンドがやけに美味しそうだったので考えもせずを買ってしまったが、旅の計画としては博多新三井ビルのとんかつ屋で昼飯を食おうと思っていた。早くも計画変更が発生。

羽田 9 時 05 分発福岡行（JAL311 便）、日本列島の上に巨大な雨雲が襲いかかってはいるものの予定通り出発。上空に出れば青空が広がり、雪を付けた赤石岳と聖岳を窓から見下ろすこともできた。

福岡空港には 11 時 10 分に到着。後でわかったことだが、後続の便は軒並み遅延で、中には機体変更になった便もあったらしい。

曇り空に小雨がぱらついている程度。地下鉄一日券を買って博多駅へ。

博多駅で地下鉄を下りて地下街を抜けて地上に出た時に驚いた。駅周辺のビルが随分変わってしまっていた。最後に福岡に出張したのは 12 年ぐらい前だろうか、住んでいたのはもう 35 年ぐらい前になる。

思い出を辿って「寒い博多」と想定して衣服を整えてきたが、気温が高いばかりか地下街の暖房が効きすぎているので汗びっしょりになってしまった。

早い時間ゆえにホテルのチェックインはまだできないのでフロントに荷を預けて、ついでにヒートテックという名がついた下着を脱いで普通の下着に着替えて、カメラを中心とした軽い荷物で出発。

8 時過ぎにカツサンドを食べてしまったおなかはまだ減ってはいないので、そのまま市内ぶらつきに出発。まずは地下鉄空港線で天神へ、そして天神地下街を歩いていて驚いた。何と周りから聞こえてくるのは中国語ばかりなのだ。夫婦・アベック・親子連れぐらいならまだしも、ベビーカーを引いた家族や親子三代総勢 6～8 名などのあらゆる組み合わせの中国人がひしめいている。後でわかったことだが、博多港に巨大客船が到着して中国からの観光客がどっと押し寄せたということだった。

天神南駅から地下鉄七隈線に乗り六本松まで行き、35 年の年月が変えてくれた町並みを軽く探索。この町並探索の続きは後日に譲るとして、博多駅前の地下街に戻って遅い昼食は博多ラーメンに餃子、余った時間でコーヒーとケーキという豪華な昼食。

博多駅から新幹線の車両基地がある博多南駅まで、新幹線を一般路線として解放している博多南線。今晚の落語会の会場がある那珂川町へはこの列車に乗らないといけない。一時間に一本なので乗り遅れないように気をつけなければならない。運賃は 300 円、自動販売機で乗車券を買くとダミーの自由席特急券まで出てくる。いざ電車に乗ろうとすると、あまりきちんとした表示がされておらず、他所から来た者にはまったくわからない博多南線だった。15 時 28 分発、車内で同道の仲間と合流し、博多南駅で今晚の会場であるミリカローデン那珂川の職員の出迎えを受けて車で会場へ。すでに職員によって会場作りが進んでおり、高座周りの細かな設営と下座などの確認を兼ねた稽古を少々。

現地のメンバーに新潟・千葉からのメンバーが加わって、本日のイベントのタイトルは

「年忘れ大爆笑 ミリカ寄席 第四回おもしろアマ落語家競演会」17 時半開場 18 時開演  
和室に椅子を並べた定員 150 名の会場はほぼ満席。

- ① つる 粗忽家勘々（そこつやかんかん）  
小学校時代から落語をやっているという歯医者さん。活舌のよい語り口で会場を温める。  
「つーっと飛んできて・・・るーっと・・・」に引っ張られて会場は笑いに包まれる。
- ② 学校Ⅱ 川崎亭好朝（かわさきていこうちょう）

歯医者さんの次は小学校の先生。「素人ですが、はっきり言って上手いです」とさりげなく軽く言いきってしまうが、いやみがなくさっと聞き流せるのが面白い。自らの職場体験が語られているだけなのに観客席はかきまわされたように笑い転げる。

③ 紙切り

粗忽家酔書（そこつやよいしよ）

全国レベルでその名が轟くアマチュアの紙切り。素人ながら客席からのリクエストに応じて紙を切るツワモノ。落語もやる人なので、紙切りをしながら語る軽妙な語りがさらに観客を酔わせる。高校の教師で国語を教えていると言う。

④ 七度狐

河内家るばん（かわちやるばん）＜千葉＞

私が参加している豊洲の「都笑亭」の一員。歯医者さんと学校の先生が続いた後で大泥棒の名前が登場するので観客席は一瞬緊張。「決して怪しいものではありません」と始まる高座で観客席はほぐれ、七度狐が活躍するにつれて会場は怒涛の渦に。

仲入り

⑤ 買い物ぶぎ

水都家艶笑（みなとやえんしょう）＜新潟＞

千葉からの大泥棒に暴れられた後は新潟から。「本名はロバート・デニーロです」と始まり笑う会場に「アハハじゃねえんだよ！」とかます。これでもう客席は高座に釘付け。古典もしっかりこなすが、新作も自分なりの味を加えて達者に語る。どこにでも転がっていきそうな出来事を語るのが面白い。

⑥ 掛取萬歳

粗忽家酔書（そこつやよいしよ）

ロバート・デニーロの後は「よいさまと呼んで下さい」と韓ドラ好きなおばさま達を揺さぶって始まる。地元で落語活動続ける中心メンバーで、紙切りも含めてその幅の広さと奥行きへの深さは驚きに値する。

年の瀬ならではの古典落語のひとつ、掛取に来る商人とのやりとりの中に「紙切り」を折り込んだ「粗忽家酔書版 掛取萬歳」はユニークで面白かった。

20時半終演、職員・出演者・応援メンバー一体となって後片付けを手際よくこなして付近のお店で打ち上げ。打ち上げが終ってホテルに戻ったらもう明日になっていた。

平成27年12月12日（土）雨ときどき曇

ホテルの朝食は中国語に囲まれて、まるで海外旅行にでも出たような雰囲気。大声で喋る、エレベーターですれ違っても挨拶をしない、子どもの食事のマナーがよろしくない等気になることが多いが、我々も昔はそう思われたのかもしれない、我慢、我慢。

本日のイベントは午後からなので、出演者一行は篠栗町の南蔵院を見学。私は単独行で住吉神社をスタートに市内のぶらぶら歩き。

博多から鹿児島線門司港行に乗って20数分、新しい街が広がる新宮中央駅で下車。地図を見ながら歩いて10分ほどで本日の会場である「そびあしんぐう」に到着。

12時に全員集合して昼食をいただいた後、小ホールで準備作業を開始。大阪から五月家ちろりさんが加わりひときわにぎやかな準備作業になった。二日目となり手慣れて来たせいやお手伝いもいっくらかスムーズになってきたような気がする。

約90名の観客席はここでも前売時点で満席だそうで、当日売りでの入場を期待して来たお客さまが何人か受付で断られていたのが気になった。

「年忘れ大爆笑 そびあ寄席 ～おもしろアマ落語家競演会～」14時開場 14時半開演

開場と同時に入ってきたお客さんが、スタッフの指示がなくても前方の席から順に座って行く。この日を待っていたと言わんばかりのお客さんの動きにびっくり。

① 初天神

川崎亭好朝（かわさきていこうちょう）

昨日同様に好朝さんらしい枕で始まり会場を興奮させる。初天神に出かけた親子、何か買ってこれとわめく倅の金坊がだだをこねる場面で、なんと高座の座位からジャンプして後方へひっくり返り大股開き。学校の先生がここまでやるかとお客さんを驚かせる。時間的な都合で途中で切った形になったが随所に好朝スタイルが感じられる初天神だった。

② お玉牛

河内家るばん（かわちやるばん）＜千葉＞

初天神では、よく笑ってくれた小学生ぐらいの子どもが会場の雰囲気を読み取っていた。二番手が夜這いのお話で少々心配があったがなんのその。牛が寝ているとは知らずに夜這いに忍びこむ……。夜這いそのものよりも、人間だと思いきや牛の体を撫でまわす滑稽さが理解できているようだった。いやらしくなく語るからこそのことだろう。

③ 試し酒

粗忽家酔書（そこつやよいしょ）

五升の酒が飲めるだろうか？酒好きな下男の久造に試させる。一般人にとって酒の五升は腰が抜けるような量である。一升枡で一杯・二杯と飲んで行く姿は、落語だとわかっていても苦しそうに見える。

静かにしっかり語って客を引きずり込み、さりげなく語って笑いをとっていく酔書さんの味がしっかりと出ていた。

仲入り

④ 金明竹

五月家ちろり（さつきやちろり）＜大阪＞

今や落語のメッカである大阪の池田から来た紅一点。ひときわ甲高い声で「五月家ちろりと書いて藤原紀香と読みます」と切り出して客席をギャフンと言わせる。そして次には本業は居酒屋のおかみであることを明かし、さらに名前のいわれを語り、その証である「ちろり」を袂から出して見せる。ここまでで観客を手中に入れてしまう。上方落語でやる「金明竹」はあまり聞いたことがなかったが、早口で語ることで上手く笑いをとっていた。

⑤ 紙切り

粗忽家酔書（そこつやよいしょ）

今日もまた驚きの紙切りだった。会場からリクエストを募れば「時の話題」が出てくるのは必定。ただ時事ネタを語る落語とは違って、それを紙に切り刻むのは至難の業であろう。予想もなかったようなリクエストにも応えなければならない酔書さんの苦労もさることながら、紙切りのテーマに合わせたBGMを即興で弾く下座の方々も凄い。

⑥ 不動坊

水都家艶笑（みなとやえんしょう）＜新潟＞

今日もまたロバート・デニーロで入り、ぐいぐい観客席を動かし続ける。

これまた小学生には難しい「未亡人と結婚した男」に嫌がらせをする話。

ひとつひとつの情景を丁寧に語っている感じで、身振り手振りにも迫力を感じた。

17 時終演後昨日同様に会場の撤収作業の後、18 時前から新宮中央駅前の焼肉屋で打ち上げ。

九州支店在勤時代の仲間だった U さんが大分から見に来てくれ、現在九州支店に勤めている T さんが合流して落語会の打ち上げと同じ店で再会を祝って乾杯。落語会の打ち上げの席と行ったり来たり忙しい懇親会食となった。博多は、中国からの大量の観光客の襲来でホテルが全く取れず U さんは特急で大分に戻った。



落語を見て私と馬鹿話をするために大分から出て来てトンボ帰り、ありがたい。筑前大分（ちくぜんだいぶ）まで帰る Tさんと吉塚で別れて博多のホテルに戻った。

平成 27 年 12 月 13 日（日）小雨のち曇

6時に起きて身辺整理を済ませて6時半に朝食、7時には出発というサラリーマン並みのスケジュール。博多7時37分発門司港行、日曜の早朝なのでがら。約35分で東郷に到着。本日の会場までは駅から歩ける距離ではないのでタクシーを利用。「宗像ゆりっくす」に9時に集合して準備作業開始。今日は兵庫県から寿亭茆町さんが加わり、さらににぎやかに。開場は和室二室をぶち抜きにして椅子を並べてあるが、用意した120席は完売らしい。

「年の瀬だよ！ 全員集合 ゆりっくすアマ落語競演会」10時開場 10時半開演  
ここでも開場と同時に入ってきたお客さんが、スタッフの指示がなくても前方の席から順に座って行く。

- ① 秘伝書 粗忽家酔書（そこつやよいしょ）  
今日はトップで出て来た酔書さん。いつもの切り出しで始まりあつという間に観客を引き寄せてしまい……。その昔鈴々舎馬風がやっていたような気がするが、近頃あまり耳にしない。飄々とした語り口でいっそうの面白さがあった。
- ② 尻餅 水都家艶笑（みなとやえんしょう）＜新潟＞  
分類によっては艶笑落語に入るこの噺は、上品に面白さでやることもできるし、下品にいやらしくやることもできる。自称ロバート・デニーロの手にかかると、滑稽さが前面にぐいぐいと出て来て、まさか女房の着物の裾をまくってケツが丸出しになっている噺とも思わずに笑い転げるお客さんを見ている方が面白かった。
- ③ 犬の目 寿亭茆町（ことぶきていりゅうまち）＜兵庫＞  
何と兵庫県から毎月宗像の落語会に参加しているという凄い人。しかも精神科医だと聞けばそれだけで観客席は盛り上がってくる。地元のお客さんにとっては顔なじみの上方落語さん。眼医者のちょっとした不手際から起きる事件を愉快にやってくれた。  
仲入り
- ④ 真田山 五月家ちろり（さつきやちろり）＜大阪＞  
今日も「ちろり風」でドッと沸かせて高座が始まった。今日の噺は欲の深い男が夢に出て来た事を信じて一攫千金にかけるが、幽霊が出てきて……。という筋書き。  
この人の高座は、落語を楽しんでいる感じがして見ても楽しい。
- ⑤ 紙切り 粗忽家酔書（そこつやよいしょ）  
今日もまた会場からのリクエストに応じてはさみを動かす。リクエストするお客さんの方も心得たもので、「こんなのリクエストしたらどうなるんだろ？」と思うようなものを持って来る。巧みに話術でかわしながらも、必ず納得がいく切り絵が出て来るから不思議。
- ⑥ 妻の旅行 2014 河内家るばん（かわちやるばん）＜千葉＞  
大阪のおばちゃんが「真田山」を語った後で、大阪のおばちゃんが主人公の落語をやるという組み合わせが面白い。桂三枝（現桂文枝）師匠が作った創作落語のひとつ。  
会場は定年退職前後から高齢者あたりの年齢層のお客さんが多く、この落語の中の展開を「我がこと」のように感じるらしく夫婦で顔を見合わせて笑っている客席が印象的だった。

12時半終演、大急ぎで後片付けを済ませてお弁当の昼食。ひと休みする間もなく車に分乗して、次の会場である直方駅前の「ユメニティのおがた」へ移動。いよいよこのツアー最後の落語会になった。ユメニティのおがたは直方駅のすぐ隣にあった。これまたデラックスな施設の中の、モダンな円形小ホール。

「年忘れ大爆笑！ユメニティおもしろアマ落語家競演会」 14時半開場 15時開演

- ① 手紙無筆 寿亭茆町（ことぶきていりゅうまち）＜兵庫＞  
 今や識字率が高いわが国、「無筆」などという言葉すら存在しない。  
 そんな想像することもできない世界の話だから余計うけるのかもかもしれない。  
 茆町さんの味が加わって盛り上がるのスタート。
- ② 時そば 川崎亭好朝（かわさきていこうちょう）  
 殆どの人が知っているネタは大変だろうと思う。お客さんは筋書きも落ちも知っている  
 ので、うっかり間違っしまえば先に気付かれてしまう。  
 ポイントは「いかに原作を間違わずにやるか」、「いかに原作に手を加えてやるか」。  
 好朝さんらしさが加わった「時そば」。
- ③ 堪忍袋 五月家ちろり（さつきやちろり）＜大阪＞  
 楽屋にいる時から轟き渡るお喋りは、周りをどんどん明るくしてくれる。  
 今日もまた「紀香とちろり」で始まる元気な高座。夫婦で営む自分の居酒屋の様子を語る  
 枕も大きな笑いになる。  
 大きく元気な声、早口で喋れる舌の滑らかさ、「堪忍袋」は適ネタのような感じがした。

仲入り

- ④ 深夜タクシー 河内家るばん（かわちやるばん）＜千葉＞  
 深夜にタクシーに乗る人なんかいないだろうと思われる町で、このネタ？  
 と勝手に心配したが、余計な心配だった。どんなところにも喰いついてしっかり笑う素晴  
 らしい観客席。
- ⑤ 大安売り 粗忽家酔書（そこつやよいしょ）  
 他愛ない話を大きく膨らませて、それぞれの人の個性で味付けして描いて行く。  
 だから落語は面白い。三日間で四つの会を運営しながら落語と紙切りで七回高座に上がる。  
 その疲れも見せず最後の高座も思いっきり笑わせてくれる。
- ⑥ 背で老いてる唐獅子牡丹 水都家艶笑（みなとやえんしょう）＜新潟＞  
 深夜タクシーと同じく桂三枝師匠の創作落語が並んだが、高齢化社会は世の中の隅々まで  
 広がり、今や我々とは縁のないこんな世界にまで深刻な問題を投げかけているという喩。  
 縁のない世界だからこそ安心して笑い転げられる。それも艶笑さんの語り口に引きずりま  
 わされて・・・。

17時45分終演。大急ぎで片付けた後楽屋として借りた会議室で軽く打ち上げ。いくつかのエピソードを振り  
 返りながら小一時間の懇親雑談の後解散。

大阪へ帰る人、兵庫へ東京へ新潟へ、それぞれのスケジュールに従って行動を開始。19時過ぎの快速博多行  
 に乗って河内家るばんと共に博多に向かった。三日間を振り返って車中で語り合ううちに、打ち上げの缶ビ  
 ールが効いてきて、どちらからともなくうつらうつら。

最終便で帰るるばんと博多駅で別れてホテルに向かった。

高座に上がった人も下座を支えた人も、スタッフも応援も、はたまた開催した施設の職員の方々も皆がひと  
 つながりになってこんな会ができたに違いない。そしてそこにお客さんが加わって、長い年月を重ねて来た  
 成果の上に立つものなのだろうと妬ましくさえ感じた。

それにしても、これだけ連続して笑いの場を持つと体が軽くなったような気さえする。やはり笑いが人に与  
 える影響力はあるような気がした。

一人博多に居残りした私は、「北部九州の超低山巡り」と「35年前に住んでいた町へ」の二つのテーマで  
 残りの二日間を楽しむことにしている。落語でいただいた「内なる力」の助けも借りて・・・。

以上

<付録の雑情報>

◆落語会開催場所総覧



◆今回出向いた施設の名称

風変わりな名称の施設が多かったので、調べて見たらこういうことだった。

施設名称	所在地	施設名称の由来
ミリカローデン那珂川	筑紫郡那珂川町	町の木「やまもも」(ミリカ)と町の花「しゃくなげ」(ロードデンドラン)と「広場」(ガーデン)を合わせて作った造語
そびあしんぐう	糟屋郡新宮町	ギリシャ語の知恵・英知を意味する「ソピア」から新しい文化施設にふさわしい名前として付けた
宗像ユリックス	宗像市	市の花「カノコユリ」と市の木「クス」を合わせた造語
ユメニティ直方	直方市	ホームページ等を探して見たが見つからなかったおそらく「夢(ユメ)」と「コミュニティ」を合わせた造語だろうと思う

◆出演者のプロフィール（プログラムに書いてあった紹介文の抜粋）

出演者	活動エリア	プロフィール	本業
川崎亭好朝	福岡	田川郡川崎町で活躍する劇団川笑一座の座長 2004年福岡国民文化祭で優勝 2015年社会人落語日本一決定戦で準優勝	小学校の教師
河内家るばん	東京 千葉	大阪から東京へ転勤を機に都内で活動 豊洲で都笑亭を立ち上げ百回を迎えた 2009年全日本社会人落語選手権大会で優勝	コンピュータ会社社員
寿亭茆町	兵庫	高校時代は漫才志向であったが落研の部員が足り ず落語を始める 神戸で活動する傍ら宗像落語会会員として福岡で も活動	精神科医師
さつき家ちろり	大阪	2009年社会人落語日本一決定戦で優勝して初代名 人となる 2010年全国女性落語大会ちりとてちん杯で優勝	居酒屋の女将
粗忽家勘々	福岡	小学6年生の時から落語を始める 持ち前の好奇心とバイタリティで全国のアマ落語 家と交流して腕を磨いている	歯科医師
粗忽家酔書	福岡	宗像落語会会長 宗像ユリックスで「日曜百円寄席」を毎月開催 落語だけでなく紙切りも本格的	私立高校の教師（国語）
水都家艶笑	新潟	2000年国民文化祭広島大会で優勝 新潟市内で開催する「ほのぼの寄席」は毎回札止め 新潟落語会会長	米作り農家